

毛猛山山行記録



ヤブ登り



山頂直下



毛猛山(左)と百字ヶ岳を振り返る

目的地	毛猛山	期 日	平成22年5月1日(土)・
山人	笠原正雄・広井伸昭・小林・山下・信賀・斉藤・高木	天 候	小雨・一時ツブ雪～曇り～晴れ

地点名	時刻	記 事
R252 路側駐車地点	午前 5:35 発	4月28日にR252が開通。大白川駅前集合し、2台で移動。何台か駐車あり。天気予報は良いのだが、小雨が降り始める。只見線の線路に降りて鉄橋を渡る。枝につかまりながらの斜面急登で尾根を目指す。途中でピッケルをぬく。
雪 に 上 る	6:05	踏み跡のある急登尾根を登る。一度尾根を外れて雪に上がり、全員が揃い足を止める。ここまでで既に大汗をかく。雪登りも急である。再び踏み跡のある尾根に上がり、登り降りを進む。幾分ヤブを掻き分けなければならない。
06.11の引返し地点	6:50	標高850m付近の小ピーク。この先で少し休む。太郎助山はガスが掛かりピークは確認出来ない。小粒の雪が混じって来る。しかし、しばらくして止んだ。
足 沢 山	7:35	足沢山の手前から雪の登りとなる。しかしピークをトラバース出来るほどの雪は無い。山頂を踏み少し休む。先の平坦な雪原にテント1張がある。進行方向に単独先行者が見えた。
ブロックの通過	7:40	雪の急傾斜面を横切りながら進み、ブロックの下にさしかかる。所々割れているところがあり、進路選択をしながら進む。
浅草岳を眺め休む	8:15	ピークに雲が掛かり、山が良く判らない。少し陽がさして来た。
毛猛山頂が見えて来た		太郎助の手前は雪とヤブコギと交互となる。雪が解けた尾根には藪の中に僅か踏み跡が判る。目指す山頂が見えている。右手に桧岳の三角錐に陽が当たっている。
太 郎 助 山	9:15	足沢山からこの間は急登もあるが、登りの時間はそれ程長くはない。しかし、雪割れやヤブコギで行程は長く感じる。
百 字 ヶ 岳	9:45	露出した岩場を上ってピークに立つ。この岩場の基部にザック1つがデポされていた。桧岳ピストンへ向かったのだろう。但し人影は見えない。
中 岳	10:15	ここへ来る途中、寒くなり鞍部でカッターシャツを着る。指先が冷たくて袖口のボタンをなかなかとめられなかった。やや、皆に遅れる。中岳からは急降下で鞍部へ下りる。その分毛猛ピークがツンと見える。
下山者とスライド	10:20	南側の斜面の登り返しに入ると単独男が下りて来た。ついで夫婦が来た。2人は足沢山下での幕営者だ。ブッシュから藪となって来る。
毛 猛 山	10:45～11:25	山頂手前尾根に上がれば、藪が切れて雪がついている。一度立ち止まって北側の景色を眺め、全員揃って登頂。傾いた三角点標石がある。空には雲があるが、前毛猛へ続く尾根、未丈への稜線をはっきりと追える。会津の山も見えているが名前は判らない。風が寒く、やや下がった所で、各々昼食を摂る。もう少し山を眺めて居たいところだが、寒くて下山する。
百 字 ヶ 岳	12:10	少し暖かくなった。雲が流れているが、今までよりも高層の雲だ。
5人が桧岳へ	12:25	空荷で向かう。もともと予定外だったことと、斉藤さんは明日、俺は明後日駒ヶ岳を予定しているので、疲れを残さないようにと2人でまっすぐ下る。
太 郎 助 山	12:45	唐松、権現に陽が当たりよく見えてきた。この後、途中でおにぎり1個食べる。
足 沢 山	2:10～2:30	朝とは違う色のテントがあり、中で話し声がする。男2人が少し離れたところで幕営準備中。ピーク下に座り、コーヒータム。斉藤さんからグレープフルーツを頂く。朝の単独者が追い抜いて行く。
駐 車 地 点	4:00 着	線路に下りる直前で幕営夫婦を追い越す。

いつか行きたいと思い、4年前の晩秋には毛猛沢と足沢の登り口の確認に行っている。その後少雪の年が続く、行けないでいた。雪の多い年となって漸くチャンスが来た。広井さんに別件のついでに話を出した。そこから話が広がって大所帯での山行になった。雪のつき具合でヤブコギが長ければもっと時間が掛かるだろう。もう少し雪が欲しいところだったが、未沢からの歩き加われば更に遠くなる。標高はさほどでは無いが、豪雪に削られた山容は迫力がある。